

## 2017 年度 小委員会活動成果報告

(2018 年 2 月 2 日作成)

小委員会名	建築外皮のエネルギー性能小委員会	
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (建築設備運営委員会)	
設置期間	2017 年 4 月 ～ 2019 年 3 月	
設置目的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既往の設計資料や研究成果を踏まえた外皮性能の評価方法のあり方の検討</li> <li>・ 空調熱負荷のみならず、自然採光利用に伴う照明負荷との相互作用を考慮した年間熱負荷やエネルギー消費との関係の分析</li> <li>・ エネルギーのみならず、温熱環境や湿気、光環境、空気質に配慮した評価検討</li> </ul>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：長谷川巖 (日建設計) 幹事：佐々木邦治 (丸の内熱供給) 委員：郡公子 (宇都宮大学)、望月悦子 (千葉工業大学)、山口温 (関東学院大学)、高田 暁 (神戸大学)、佐伯美奈子 (アール・アイ・エー)、高井啓明 (竹中工務店)、川島範久 (東京工業大学)、高瀬幸造 (東京理科大学)、佐々木真人 (日本設計)、舘景士郎 (日建設計)、中村駿介 (三菱地所設計)	
設置 WG (WG 名：目的)	なし	
2017 年度予算	100,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：無

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	なし
講習会	なし
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	なし
大会研究集会	なし
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 全 6 回に亘る小委員会開催 (第 6 回は 2018/3/5 開催予定) をし、外皮性能にかかわる、全委員の研究および実例紹介を実施し幅広く情報交換を行った。 2. 外皮性能評価に関わる評価のあり方を討議した。
委員会活動の問題点 ・ 課題	なし

## 2017年度 小委員会活動 自己評価

### (中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>本小委員会を6回開催(第6回は2018/3/5開催予定)した。外皮性能にかかわる、全委員の研究および実例紹介を実施し幅広く情報交換を行い、外皮性能評価に関わる評価のあり方について討議を開始した。</p> <p>各回小委員会の主な話題提供と討議内容</p> <p>■第1回 2017/6/2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小委員会設置趣旨</li> <li>・既往の委員会活動「ファサードと環境に関する電子書籍と編集に関する検討WG」の解説</li> <li>・外皮性能評価に関する自由討論と今後の進め方について</li> </ul> <p>■第2回 2017/7/6</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究紹介/1)次世代の光環境ヒューマンセントリックデザインと技術/2)乾燥感に配慮した室内温湿度の調整方法/3)住宅・オフィスにおける外皮熱性能評価事例</li> </ul> <p>■第3回 2017/9/5</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究紹介/1)木造ダブルスキンを用いた外皮性能検討/2)CLT材を外装あらわしとした建物の熱特性/3)多角的評価のための建築熱シミュレーションエンジンの開発</li> </ul> <p>■第4回 2017/11/7</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究、事例紹介/1)日本における環境配慮建築の設計プロセス/2)業務建築の外皮仕様とカタチについて/3)竹中工務店 東関東支店 ZEB 改修における取り組み/</li> <li>・建築外皮の評価方法の方向性(案)</li> </ul> <p>■第5回 2018/1/16</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究、事例紹介/1)東京工業大学 緑ヶ丘ハウス/2)関東学院大学 建築・環境棟/3)東京工業大学 環境エネルギーイノベーション棟/4)丸の内地区における外装システムの取り組み</li> <li>・建築外皮の評価方法の方向性(案)</li> </ul> <p>■第6回 2018/3/5 (予定) / 建築外皮の評価方法の検討</p>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価(シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など)に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。